

経営比較分析表（令和6年度決算）

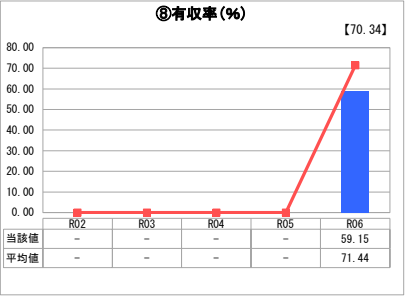
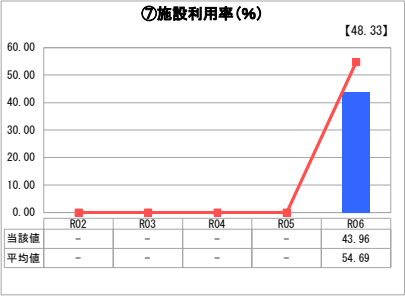
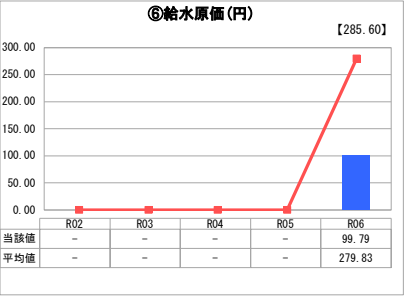
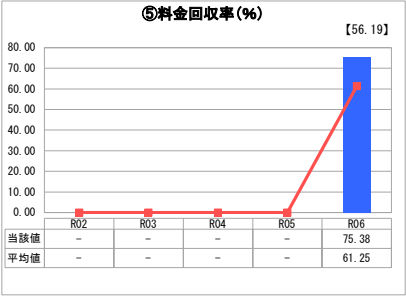
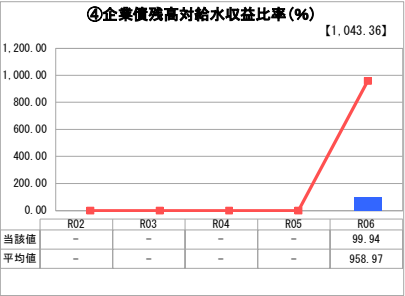
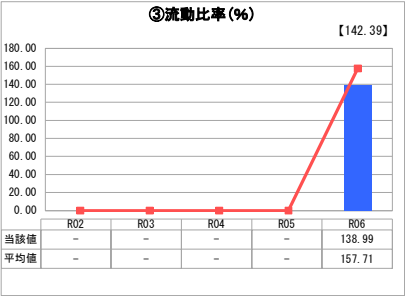
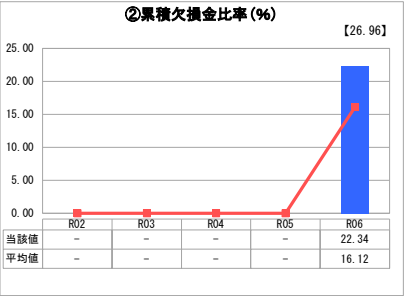
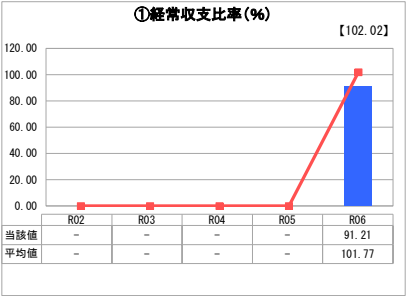
群馬県 川場村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	簡易水道事業	C3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	95.10	99.05	1,540	

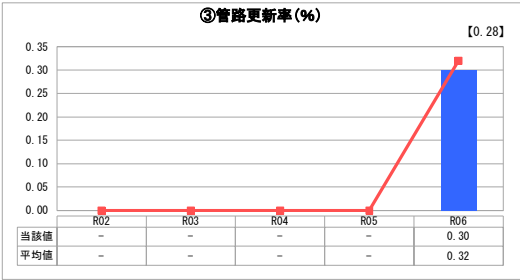
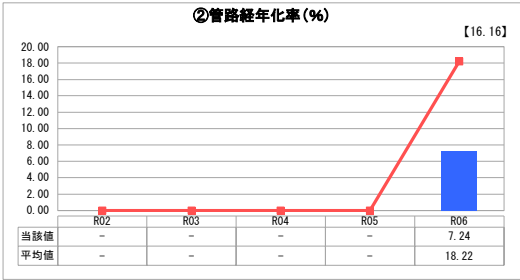
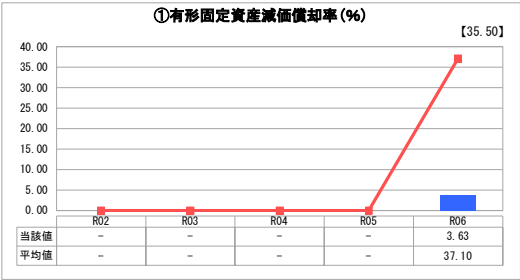
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
2,973	85.25	34.87
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
2,921	62.20	46.96

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

令和6年度の決算は、公営企業法適用の初年度決算策定であり、企業会計方式にしたため財務諸表分析と各種経営指標の分析が可能となり、厳しい経営状況が浮彫になった状態である。

料金水準が低いことから経常費用を賄えず、財源が足りない状態であるため、一般会計から繰り入れを行っているが、それでも経常収支は赤字となっている。また、料金回収率は7割程度といわれる「原価割れ」の状態である。

今後、漏水を特定して、修繕及び管路更新を実施していかねばならないが、修繕や管路更新には財源の確保が必要であり、更新投資を積極的に行えば給水原価と企業債残高は増加し、さらに料金回収率と経常収支比率が低下し、老朽化指標以外の各指標値は悪化していくこととなる。

そういった状況より、早急な料金改定の必要があり、財源確保に努めていく必要がある。

2. 老朽化の状況について

有収率がかなり低く、管路の老朽化が進行していると思慮される。有収率向上に向けた漏水調査の実施、修繕、管路の更新は避けて通れない喫緊の課題であり、更新投資を適正規模で行い、有収率を向上させていく必要がある。

施設利用率が低くなっており、今後ダウンサイズを考えなければならない状態となっている。

全体総括

喫緊の料金改定の検討は避けられないため、R8年度に料金改定に着手する。

財源を確保したうえで更新投資を行い、有収率を向上させ、さらにはダウンサイジングプランを策定して費用削減を行っていくことを経営戦略に盛り込み、事業運営を行っていく。